

みやぎの多文化な人 宮城県内で活躍している海外出身者をご紹介します。

ネパール出身の頼れる自動車整備士



サル・スレスタ・ディピナさん **スペティ・モハン・バハドルさん**
ネパール連邦民主共和国 ネパール連邦民主共和国
シャンジャ出身 パルバット出身
仙台市在住 株式会社東北マツダ勤務



仕事場にて

— 出身はどちらですか。

モハン 出身はパルバットです。ネパール第2の都市ポカラから車で1時間半くらいです。来日するまでパルバッドで暮らしていました。

ディピナ 私はポカラから1時間ほどのシャンジャの出身です。20才の時にカトマンズへ引っ越しました。

— 来日の経緯を教えてください。

ディピナ 私は以前から留学を希望していて、日本は女性も安全に暮らせる国だと聞いて決めました。カトマンズの日本語学校で勉強し、日本語能力試験のN5に合格してから日本にきました。

モハン 私とディピナはネパールの語学学校は違いましたが、紹介された日本語学校が偶然同じで、2014年8月の同じ日に仙台にきました。

— 日本で始めた生活はどうか。

ディピナ いろんなことが大変でしたが、まず買い物が大変でした。商品は日本語で書いてあり、欲しいものが分かりませんでした。ネパールの砂糖は粒が大きいので、「上白糖」が砂糖だとわからなくて、塩と間違えました。

モハン 食べ物に戸惑いました。ネパールは豆料理を多く食べます。日本と比べて肉をあまり食べないので、大豆はたんぱく質補給に欠かせません。納豆が大豆だと知ってこれだ！と思いましたが、想像を超える味と粘りにびっくりしました。またネパールでもラーメンを食べるのですが、ネパールのは具沢山ののに対し、日本は麺が多くてしょうゆ味なので慣れるまで時間がかかりました。いまは好きです。

— 日本語学校を卒業したあと、自動車整備の専門学校へ進んだそうですね。

モハン 日本語学校を終える6か月前に、自動車の整備士の道に進むことを決めました。ネパールに住んでいたころから車や整備に興味があり、整備士になることを考えていたからです。2016年の4月に仙台市にある専門学校に入学しました。自動車の整備についての勉強、特に実習は楽しかったです。それから併設の教習所で自動車運転免許の教習を受けました。ネパールでは2輪に乗るだけだったので、仕事に必要なと言え、免許取得は嬉しかったです。

ディピナ 私は日本語学校終了後に帰国することは考えていませんでしたが、進路を決めたのはモハンより少し遅かったです。前年までそう多くはなかったようですが私たちが入学した2016年は、同じ学校にネパール、ベトナムとスリランカ出身者が合わせて50人ほどいました。漢字が難しくて日本語学校の時

もここでも苦勞しましたが、2級自動車整備士の試験には1回で合格しました。

— 就職するまでの流れや現在の仕事などについて教えてください。

ディピナ 今の勤め先の株式会社東北マツダによる一般採用の就職説明会が学校でありました。私たちの実習の様子を見てもらったり、集団面接を受けて、初の外国人整備士として採用されました。

モハン 面接のことは緊張しすぎていたせいか記憶があいまいですが、ネパールのことやどうしてこの会社で働こうと思うのかと聞かれたのを覚えています。無事2017年の7月に採用が決まり、2018年の4月から働き始めました。

ディピナ 仕事の時間は9:30~18:15です。学校に通っていたころは勉強してから、お弁当作りなどのアルバイトもして忙しかったので、今は自分のための時間が増えました。新型コロナウイルスの緊急事態宣言が出されたときも、自動車整備業は休業要請を行わない業種とされ、会社は休業にはなりません。今は残業時間が少しありますが、もっと働きたいと考えています。現在の仕事については、車の足回りの整備は力仕事なので大変ですが、ドアミラーやコンデンサーのところは私の腕がスッと入るので得意な作業です。女性の整備士は少ないですが、特性を生かせる作業はたくさんあると思っています。

モハン 仕事以外の時間は、ネパールにいる家族とSNSを使って毎日話しています。あと学生の頃よりも寝る時間が増えました(笑)。仕事については、「重整備」と呼ばれるエンジン交換の仕事など早くひとりでするようになりたいです。先輩からの指導が時には厳しいこともありますが、車の整備はお客様の命を守る仕事なので、責任のあるとても大事な仕事だと理解しています。私はメモしたり、作業段取りを確認して、しっかり技術を身につけるよう取り組んでいます。

勤務先の方に聞きました

(株)東北マツダ 管理部総務グループ 課長 大森昇さん

モハンとディピナは本当に優しいです。日本語で戸惑っていることもあるけれど、彼らの話し方には誠実な人柄が表れています。仕事への取り組みは非常に前向きで、なんにでもチャレンジして技術を得ようと頑張っています。その頑張りが見えるので、周りにもいい影響を及ぼしています。わが社にとって自慢の社員です。

「みやぎ外国人相談センター」から

今年度も開催します!

外国人のための法律相談会

Legal Consultation for Foreign Nationals

为外国人举办的法律咨询会 외국인을 위한 법률 상담회

Legal na Konsultasyon Para sa mga Dayuhan

CHƯƠNG TRÌNH TƯ VẤN PHÁP LUẬT DÀNH CHO NGƯỜI NƯỚC NGOÀI

विदेशीहरू नागरिकका लागि कानुनी परामर्श

Konsultasi Hukum Untuk Orang Asing

仙台弁護士会とMIAが、県内にお住まいの外国人のために法律相談会を開催します。
弁護士からの専門的なアドバイスを必要としている方は、ぜひご相談ください。

- ◎対象 象 県内にお住いの外国人またはその家族
- ◎相談料 無料
- ◎受付期間 2021年1月12日(火)～2月1日(月) ※お申込みを受け付けてから、相談する日時・場所を決めます。
- ◎申込先
 - ・日本語でのお申込み：仙台弁護士会法律相談センター TEL 022-223-2383
 - ・外国語でのお申込み：みやぎ外国人相談センター(宮城県国際化協会MIA内) TEL 022-275-9990
- ※いずれも平日の10:00～15:00
- ◎使用言語 日本語での相談が難しく、自分で通訳者を手配できない方は、MIAで通訳サポーターを紹介することができます。
- ◎主催 仙台弁護士会
- ◎共催 宮城県国際化協会(MIA)

防災研修を3地域で開催しました



MIAでは、10月から11月にかけて、在住外国人を対象とした防災研修を3地域で開催しました。

まずは気仙沼市小さな国際大使館さんとの共催で、市内2社の企業に勤めるミャンマー人技能実習生を対象として開催。気仙沼・本吉地域広域行政事務組合消防本部のご協力をいただき、座学だけでなく、会場となった気仙沼・本吉広域防災センター内の地震体験装置や煙体験装置などを使って、災害時に身を守る方法を具体的に学びました。

仙台市内ではMIA日本語講座初級クラスの一環として行いました。多言語の資料をもとに防災・減災の知識を深めたほか、日本語講座講師の鈴木英子さんから「災」「危」など、関係する漢字を教えてもらい、受講生からも好評でした。

多賀城市大代地区公民館では、地区内に暮らすミャンマー人技能実習生と、これから技能実習生と継続的に交流を深める「交流サポーター」、地区の町内会役員、多賀城高校の生徒など、多様な立場の人たちが一緒に学びました。同じ地域に暮らす人たちがこのような機会を通してお付き合いを重ね、顔の見える関係になることは、災害時のスムーズな「共助」を可能にし、防災・減災につながるものと思われま



気仙沼の防災研修で地震の揺れを体験中のミャンマー人技能実習生

海外移住物故者慰霊祭

当協会では、海外へ移住後に異国の地で亡くなられた移住者の方々の労苦を偲び、供養する「海外移住物故者慰霊祭」を大崎市鳴子にある「鳴子霊園」にて毎年実施しております。

今年度は、好天に恵まれた9月17日に40回目となる慰霊祭を実施しました。元宮城県海外移住家族会の会員の方々、また、今年8月にブラジルで亡くなられた移住者のご親族の皆様にも参列いただきました。

初めに司会がブラジル宮城県人会等の物故者10名の名前を読み上げ、次に吉田ふく子前宮城海外移住家族会会長(以下、「吉田前会長」)が物故者名簿を観音像に奉納しました。

その後、当協会の加藤睦男理事長が物故者を弔う挨拶を行い、来賓の吉田前会長と宮城県経済商工観光部国際企画課の菅原正義副参事兼課長補佐が課長の代読として追悼の言葉を述べました。

来賓の挨拶後、祥雲寺住職の読経が流れる中で、参列者が焼香し、異国の地で果てた移住者の霊を偲びました。



慰霊祭



MIA日本語講座だより

このコーナーではMIA日本語講座に通う受講生の声や教室の様子などをお伝えします。

MIA日本語講座初級1クラスに通う香港出身の張美儀さんにお話を伺いました。

—9月1日から通い始めて間もなく2か月が経ちます(インタビュー日は2020年10月20日)。毎日とても充実しています。クラスメートはインドネシア、タイ、中国、ネパール、アメリカというようにみんな出身国が違いますが、とても仲良く、助け合って勉強しています。先生はどの方もとてもユニークでわたしの興味や学習意欲を刺激し続けてくださいますし、日本の日々の生活に直結する語彙や文法を中心に学習しますので、すぐに日常に反映することができ、手ごたえを感じています。これまではもっぱら英語で会話していた日本人の夫と、最近では日本語で少しずつ話すようになり、夫も驚き、喜んでます。また、夫の実家に子どもを預けたときに義母は子どもの行動記録をメモしてくれているのですが、それも少しずつ読めるようになり、先日はついに返信も書くことができました。子育ては広東語と英語が中心でしたが、子どもが保育園に通うようになりまして、これからは日本語で話すことが増えそうです。



オンライン版学校訪問プログラム ～宮城県角田高等学校編～

MIAでは地域における国際理解教育の推進を目的として、宮城県在住の外国人講師を学校や団体などに派遣する、学校訪問プログラム「MIA国際理解教育支援事業」を行っています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により講師の派遣を見合わせていますが、10月からオンライン形式でのプログラムがはじまりました。10月29日(木)には、宮城県角田高等学校の1年生約160名と交流しました。

この日は、イギリス出身のセリーナ・コイドさんとラオス出身のチッパソン・スワブタさんが自分の出身国について紹介しました。セリーナさんは、イギリスの名所に関する豆知識やハロウィンなどの季節の行事について写真を交えて話し、チッパソンさんは、持参した数種類の民族衣装や楽器、通貨などの実物を見せながらラオス文化について紹介していました。

プログラムに参加した生徒たちは「今は旅行ができないけど、いつかイギリスに行きたいと思いました。」「ラオスという国の名前は知っていても、どんな国なのか良く知らなかった。今回話を聞いて興味を持つことができた。」などの感想を述べていました。

チッパソンさんは「学校に行って、子どもと直接交流ができないのは残念だけど、オンラインのプログラムを行うことで、交流の機会をなくさないようにするのは良いことだと思います。」と話していました。

MIAでは、オンラインプログラム実施に向けてのご相談も受け付けております。プログラムの詳細については、MIAホームページをご覧ください。

<http://mia-miyagi.jp/kokurikyo.html>



オンラインで話をしている講師たち

ライブラリー

ライブラリーのコーナーで紹介されている図書は全て貸し出しまたは当協会図書資料室で閲覧可能です。

「教室へのICT活用入門」 著者:藤本かおる 発行:国書刊行会

本書は、日本語の指導者がどのようにICT(情報通信技術)のサービスやソフトまたはWeb会議ツールなどを取り入れて、教室や授業で学びを深めていくかを提案しています。語学学習で使われているICTの種類、ICTを使った教授法・授業改善や教室活動に必要なスキルなどを知ることができます。この度の新型コロナウイルス感染の影響で対面授業を行えず、もどかしい思いをした日本語教室で、これからオンライン授業などやってみよう!または改善したい!とお考えの方々にお役に立つ1冊です。

ご興味をお持ちになった方は、ぜひ手に取ってみてください。



外国籍児童への取り組み 栗原市立高清水小学校

本校には、アフガニスタンとパキスタンから来た児童が合わせて7名在籍しています。子どもたちは基本的に各学級に所属して通常の授業を受けていますが、日本語の理解度に合わせて取り出し授業で個別指導、同学年や異学年のグループ指導を受けています。これらの指導は日本語指導の講師2名が行っています。また2学期からはさらにJICA海外協力隊で日本語指導の経験がある職員が加わり、「国際学級」を開設し、日本の文化、生活習慣の学習、サバイバル日本語を教え、日本語の力やコミュニケーション力の向上に向けた取り組みを始めました。

宗教が違うことから、学校給食や日本文化的行事や宿泊体験等で食べられない・できないことがあるため調整が必要なこと、学校からのお便りでは保護者へ伝わりにくく、その都度電話をかけて説明すること、一時帰国による長期欠席のため学びの継続や積み重ねが難しいことなど、外国籍の子ども特有の難しさもあります。これらの対応のために担任を始め学校側に負担がかかっていることも事実です。同時に日常が国際理解教育、人権教育の場であることを実感しています。男女同室での着替えなど「日本の学校的」スタンダードがグローバルではないこと、本当に大切なことは何かを気づかせていただいています。

外国籍の子も他学年児童と一緒に混じってドッジビーで遊ぶ姿が普通に見られます。7名の外国籍の子どもたちは、本校や地域にとって、間違いなく大切な宝であり、仲間なのです。

栗原市立高清水小学校 校長 蛭名博人



日本語クラスの掲示板の前で



みやぎの国際活動団体

「石巻市国際交流協会」

石巻市国際交流協会は、旧石巻市・河南町・桃生町の各国際交流協会が合併し2006年5月に設立されました。来年度は設立15周年を迎えます。「人とひと、心と心とのふれあいを生む交流」をモットーに石巻市の国際交流を推進しており、チュニジア共和国、姉妹都市のイタリア・チビタビッキア市、中華人民共和国内モンゴル自治区との交流活動やMIA共催のみやぎのふるさとふれあい事業（ホームステイ）などの活動をしています。

チュニジア共和国との親善交流のきっかけは、1992年にチュニジア人の東北大学留学生アミラ・マヘルさんが郷土伝統行事ふれあい事業（現ふるさとふれあい事業）を通じて桃生町に1泊ホームステイをしたことでした。町長やチュニジア大使館関係者との縁が繋がりに行政の面でも双方で表敬訪問が行われています。かつて大使のサラ・ハンナ氏が当時の桃生町を訪問された際には、大使一家が一般家庭へのホームステイを希望し、さらに交流が深まりました。梅干しがお好きだったようでたくさん召し上がったそうです。石巻市はチュニジア共和国の2020東京五輪・パラリンピックの「ありがとう復興ホストタウン」となり、広く紹介する取り組みも行っています。コロナ禍であることから交流活動は控えめですが、10月には「2020チュニジア観光物産フェア」を行いました。アフリカ大陸北部の地中海沿岸に位置する美しいチュニジア共和国について興味を持っていただけたら嬉しいです。

事務局長 今野一



元留学生のマヘルさんご家族 寄贈モザイク前で

会員は随時募集中です（居住地は問いません）。

詳しくはホームページをご覧ください。

URL : <http://ishinomaki-ia.jp/>

E-mail : ishinomaki.ia@gmail.com

FAX : 0225-23-3641



賛助会員募集

MIA(公財)宮城県国際化協会は、県民参加の幅広い国際交流を進め、人と人との輪を広げていくために、皆様の御理解と御協力を求めています。



●賛助会員の資格

本協会の趣旨に賛同し、運営活動に協力していただく個人や団体(国際活動団体、企業、機関)など

●賛助会員の区分と年会費

個人会員 / 1口 3,000円
団体会員 / 1口 10,000円

●賛助会員の特典

◎協会機関紙「みやぎの国際情報誌 倶楽部MIA」の定期送付(年6回)

◎当協会主催のイベントや各種講座の案内及び参加費の減免

◎個人会員については協会と提携する旅行会社が指定する国内外の旅行代金の一部割引
宮交観光サービス(株)

◎企業会員については世界各国国旗の無償貸し出し、及び当協会の外国人スタッフ等による国際理解出前講座の無償提供

●入会方法

◎本協会あてご連絡ください。
所定の申し込み用紙と振り込み用紙を送付いたします。



倶楽部 **MIA** vol.112

編集・発行
公益財団法人 宮城県国際化協会
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号
宮城県仙台合同庁舎7階
TEL 022(275)3796
FAX 022(272)5063

E-mail mail@mia-miyagi.jp URL <http://mia-miyagi.jp>

